



ゆらこ

2004.9.30

マーク制作:関知磨子(秋津コミュニティ:蚊帳の海一座)

(融合研のホームページ) <http://www.yu-go.info/>

(事務局) 〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4 (TEL & FAX) 043-463-1929

メール会員には印刷物での会報は郵送されません。印刷物として欲しい方は、ご自分でプリントアウトをしてください。その分、メール会員にはホームページやメール等による情報面で様々な特典があります。是非、上記のホームページをご覧ください。

本号の内容

巻頭言 : 渡辺喜久(融合研副会長;静岡県富士宮市)

- 1 盛岡フォーラム特集;大盛会の様子を記録からごらんください。
- 2 総会決議より;会則をはじめ、いろいろなことが変わりました。
- 3 来年度のフォーラムについて;高知県で開催されます。魅力的な内容が満載です。
- 4 2006年度のフォーラムについて;10回目になりますので、東京で行う予定です。
- 5 事務局会議から;ホームページの活用をはじめ、いろいろなことが話し合われました。よくご覧ください。
- 6 資料集の発行について;第2号・第3号が発行されます。
- 7 融合塾での学習から;熱心な学習から様々な成果が生まれています。
- 8 その他
2007年度のフォーラム開催の立候補を受け付けます
融合研年報「学社融合2005」に収録する研究実践報告を募集します

巻頭言

(ここにテーマが入ります) 渡辺喜久(融合研副会長;静岡県富士宮市教育委員会)

「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」をテーマとした「賢治と啄木青春のまち・融合フォーラム2004 in盛岡」の大会から1ヶ月が過ぎました。点が集まり線となり、線が動いて面に、さらに面が動いて立体となる、こんな一連の動きを感じた大会でした。大阪フォーラムの壇上で高らかに名乗りを上げた庄子さん、藤尾さん、野澤さんをはじめとする東北支部のみなさんの意気込みとその後の創造的な取り組みが、当日の200人近い参加者、70人以上のスタッフ・発表者という形となって現れました。

大阪では、まさに「点」でした。それが今、東北支部の実績は、輝き、高くそびえ立っているように思えます。日本一の高さと美しさを誇る富士山のある富士宮市では、さまざまな場で、「あの富士山の高さと美しさは、広い視野に支えられている」という話を子どもも大人もしばしば耳にします。盛岡大会を通して、東北支部だけでなく、融合研そのものにも広がりを感じます。この広がりが、より確かなものになっていくことを願い、私自身、活動していくつもりです。「竹やぶ融合」（竹は、葉っぱだけがザワザワしているが、竹(茎)は動いていない）にはしたくないと思います。

そして、自分自身としては、融合研の副会長という大役を承認された記念すべき大会でもありました。役をいただき、自分を追い込むことも必要であり、何よりもこの会を通して、全国の多くの仲間とつながり、それが子どもや自分自身の生きがいづくり、さらに地域づくりに結びつくと考え、引き受けることにしました。今後も多くの会員の皆様の事例に学び、自分自身を成長させていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

私は、平成11年に入会し、会員番号は139番です。しかし、現在、私の前には41人の会員しかいません。そのあとの会員番号もいくつか抜けています。難関大学の合格者発表掲示板をみているようですが、会員番号は、今後も詰めることなくこのままの状態がよいと思います。隠れた番号がいろいろなことを物語ってくれるからです。「あなたの番号は、一生あなたのものです。必要なとき、いつでも戻ってきてください。融合研は、いつでもあなたを歓迎します」ということを一番訴えたいと考えますが、厳しい言い方をすれば、「融合研の運営の在り方に対する元会員の評価」だとも思えます。今回の大会を通して、また多くの方々が会員登録をし、その数は199人になりました。会員数が増えることも大切ですが、私は年度当初、何人の方が再登録するかが、もっと重要なことと考えています。「去る者は追わず」でなく、「追い続けたい」というのが本音です。

私の入会のきっかけは、仕事上の必要性からのものでした。会員の中には、このような方も多いかと思います。でも、気がついてみれば、仕事上のことはまったく忘れ、会の活動そのものを楽しんでいます。私の経験からすると、会員であり続けたいかどうかを決めるのは、どれだけ会の活動に係わるかです。全国大会や事務局会議、学習会への参加、メールによる情報交換、先進地への視察研修等々です。そこには、いつも温かく迎えてくれる会員がいます。活動そのものを楽しみ生き生きとしている仲間がいます。困ったとき、自分のことのように手をさしのべてくれる仲間がいます。そんな仲間を支えられて今日までできました。

融合研の案内に、こんなことが書かれています。「学校と地域は『宝の山』。モノ、ヒト、コトの『宝庫』。学校と地域からの発信で『まちづくり』を目指したい。そういった思いから、学校と地域の融合活動を実践し、情報交換をしながら勉強しあう会。それが、学校と地域の融合研究会です。」と。まちづくりはひとづくり、ひとをつくるのはひとひととのつながりです。これからもさまざまな活動を通して、つながりの輪を広げていきたいものです。

[1 盛岡フォーラム特集](#) ; 大盛会の様子を記録からごらんください。

賢治と啄木青春のまち・融合フォーラム2004in盛岡報告 (文責;藤尾智子)

この度の「賢治と啄木青春のまち融合フォーラム in 盛岡2004」開催にあたりましては会員の皆様的一方ならぬご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。

1年前に大阪でフォーラムが開催されて以来、次はぜひ東北・岩手で開催したいと名乗りを上げ、以来1年間「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」をテーマに構想をあたためながら準備をして参りました。多くの方がフォーラムに関わることを目標にして、準備段階から公開させて頂いた結果、会場には190名の方が参加され、70名以上の方がスタッフや発表者として関わりました。参加者アンケートでは、とても満足したという感想が多数寄せられ、大変嬉しく、今回の融合フォーラムを盛岡で、岩手で開催して良かったと改めて感じております。

また、編集委員のご努力で「年報」「資料集」の発行が実現できましたこと、事務局の斉藤さん、中村さんにはHPでの宣伝や申込みができましたことにあらためて深く感謝申し上げます。

さらに、フォーラムでの分科会発表、屋台発表の内容は年報に掲載しておりますとともに、HP (<http://eg-s.cneti.ne.jp/users/you-go/>) で会員からの報告もありますのでそちらも是非ご覧くださいませようご案内いたします。

1. テーマ：市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働

市民が自ら考え行動する実践が数多く紹介され、市民が学校と協働し何を創りあげていくべきかを確認。

2. 開催日：8/21(土) 12:00受付～ 8/22(日) 15:00終了

3. 主催 学校と地域の融合教育研究会
 4. 共催 盛岡市教育委員会 紫波町教育委員会
 5. 後援 岩手県教育委員会 盛岡管内社会教育協議会 日本教育新聞社 雫石町教育委員会 東和町教育委員会 矢巾町教育委員会 岩手町教育委員会 滝沢村教育委員会 葛巻町教育委員会 西根町教育委員会 松尾村教育委員会 安代町教育委員会 さわやか福祉財団勤労者マルチライフ支援センター (社)岩手経営者協会 (社福)岩手県社会福祉協議会ボランティア活動振興センター (特活)いわてNPOセンター

6. 参加者 市民団体関係者、ボランティア活動者、行政関係者、学校関係者ほか190名

7. 開催場所

フォーラム主会場「プラザおでって」

〒020-0871 岩手県盛岡市中の橋通1-1-10 019-653-4417 <http://www.odette.or.jp>

分科会・懇親会・宿泊「ホテルサンオーエン」

〒020-0871 岩手県盛岡市中盛岡市中ノ橋通1-1-21 019-653-7000

8. 内容 基調講演 「まちづくりと学社融合～生涯学習社会の創造と学校・市民との協働」

講師；えにしやの清水義晴さん

まちづくりは、小さな声や弱いところから始まる。犯人探しより関係づくり。新しいワークショップによる実践を仕掛けてきた清水さん、フォーラムのテーマにするべく迫る。

分科会

おやじ会の権利回復～楽しくって育児なしの父親でいられない？ 担当：仙台市・斎藤さん・石垣さん
 おおいに語り合い、おやじの元気回復の分科会だった？仙台市を中心としたお父さん達の活動、千葉県鎌ヶ谷市初富小の「お父ちゃんの会」福岡県「ざ・おやじコミュニティ」の皆さんと語り合った。

コーディネーター：陣内雄次さん（融合研会員・宇都宮大学教育学部助教・NPOとちぎボランティアネットワーク理事）

この本大好き、大人も大好き、子どもの読書 担当：盛岡市 大石さん

子ども達にとっていごこちの場が学校図書館。事例は、岩手県紫波町図書支援グループほん太ネット、学校図書ボランティアから学社融合の札幌方式、ホロコースト資料センターの目指す融合、絵本の店ココ・サン。

案内役：和田 智香さん（高知市 えほんの店ココ・サン店長）

情報は融合の味方 担当：仙台市・成瀬さん

PCの向こうに人がいる。ITから新しいコミュニティづくりがはじまる。教え合っ、学びあって、あいばら紫波、地域から信頼されるHPの愛知県光ヶ丘中学校、宮城県のみんなでつくる渡り鳥ネットワーク。
 コーディネーター：金 政信さん（岩手県立大学社会福祉学部 専任講師・東北福祉大学総合福祉学部兼任講師、岩手県立一関高等看護学院兼任講師）

はじめての学社融合 担当：紫波町 藤尾さん

「融ってなあに？」の答えのヒントがたくさんありました。市川市ナーチャリングコミュニティ、厚木市森の里中学校PTA、岩手県の教育振興運動からトロリン村（上田中学校区）の事例。

コーディネーター：松下 俱子さん（融合研会員・独立行政法人国立少年自然の家理事長&聖徳大学客員教授）

まちづくりのコーディネーターをめざそう 担当：仙台市・針生さん

子どもの創造性と市民性の育成を目指し学校ができる社会貢献を参加者参加型での分科会。新潟博進堂の人を育てる教育、せんだいみやぎNPOセンターのコーディネート機能から。

コーディネーター：森川貞雄さん（融合研会員・日本体育大学体育社会学教授）

子どもの自尊と可能性を広げる 担当：仙台市 鈴木さん・門真さん

不登校のない学校、子どもの自信を育む大人達の感動と行動。仙台市教員ボランティア「ハートフルサポーター」、鹿沼市子どもたちのためのこどもたちの北光クラブ、貝塚市永寿小学校の取り組みと「まなびーねっと」など。

コーディネーター：小澤紀美子さん（融合研会員・東京学芸大学教授住環境教育学）

屋台フォーラム

融合研名物 発表したい方々が屋台のように自慢の実践を発表全国に発信。かわいも着ぐるみの初登場やアコーディオン弾きの登場など話題をたくさん残しました。8つの屋台が先出店されました。

懇親会・名産物のセリ市

100名以上の参加者で全国から集まった人たちと大いに語り盛り上がった懇親会。あちらこちらで話がはずみ全国名品を知らないでしまった方も多かった？

特別企画【融合居酒屋】

「融合の語り部」3氏がそれぞれ居酒屋を開店。話がつきない熱い夜となりました。
宮崎 稔会長 **融合軒**「『学校の裏側』：学校の厚い壁を乗り越えるための具体策を語り合う」
岸 裕司副会長 **秋津菌散布亭**「子どもが輝く『子どもバザー』の散布方法」を紹介し語り合う
越田幸洋プログラム研究開発委員長 **かぬま屋**「こうすれば地域と学校は融合できる～そのコーディネート」を語り合う

パネルディスカッション「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」

パネラー：國井達夫氏（前盛岡市教育振興推進委員会会長）+ 清水義晴氏 + 役重眞喜子氏（岩手県東和町教育委員会次長）
+ 前田 恵氏（徳島県海部町教育長）
コーディネータ：野澤令照氏（学校と地域の融合教育研究会東北支部長）

特別講演「ハンナのかばん～悲しみを希望にかえて～」

講師：石岡史子氏（NPO 法人ホロコースト資料センター所長）
世界中を駆け回り語り続ける石岡さんとハンナのかばん。人間にとっての真実に迫る。ソフトな口調に会場ではハンカチをとる姿もチラホラ。

ファシリテーショングラフィックス

新潟まちづくり学校の宮崎道名さんを中心にと地元から初めて挑戦するメンバーが参加。未だグラフィックの段階でしたが、温かい場づくりに一生懸命でした。

オプション・ツアー「賢治ゆかりの地+茅葺き露天風呂の温泉」

賢治記念館やイギリス海岸を訪ね、茅葺きの温泉でゆっくりくつろぎ、翌日は民話の里遠野へ。20名参加

基調講演概要

「まちづくりと学社融合 生涯学習社会の創造と学校・市民との協働」

講師：清水義晴氏（まちづくりコーディネーター「えにし屋」主宰）

期 日：平成16年8月21日（土）13：15～14：45 会 場：盛岡市「プラザおでつて」

1 教育と携わったきっかけ

- ・ 企業経営（印刷屋）のかたわら、ボーイスカウトの指導をした。そのなかで、教えるばかりで育てる場がないと思い、現代版・企業版システムキャンプを実施しその中で、キャンプのプログラムを開発した。
- ・ 平成5年の愛知県のいじめから自殺した事件を他人事のように聞いていたが、平成6年の新潟県上越のいじめからの自殺にショックを受けた。学校だけの問題ではない、社会だけの問題ではない、一人一人の問題だけではないと思い、学校教育にかかわっていかうと思った。

2 三春町武藤教育長のこと

- ・ 新潟県安塚町で、不登校の生徒を集めて自由学校を開いたが、うまくいかなかった。そこで、教育フォーラムを行い、その講演者として三春町武藤教育長と出会った。
初任のときに出会った不良少年の話
彼は、周囲の人や仲間から受け入れられずに悪さを繰り返していた。悪仲間とともに文化祭に不出来で笑われたが、「指人形による五木の子守唄」を出す取り組みをした。発表終了直後、一時会場はシーンとしたが

ぐに素晴らしいものを見せてくれたと言う拍手が起こった。その後、彼は毎晩のように宿直室に来て勉強をした

養護学校の校長のとき、校舎の壁に「馬鹿学校」の落書きがあった。落書きを消すことは簡単だが、意識を変えることが大切。どの子もできるようになりたがっている。

教育とは生きる喜びを育むことだと学んだ。企業は喜びをつくることと通じるところがあった。

3 いつも改革は少数派から始まる。そしてその武器は「志」。

- ・ 新潟県 聖籠中学校を作った手島教育長

築 38 年の十日町小学校の校舎を改築しようと P T A が立ち上がった。そこで計画づくりのお手伝いをした。学校改革が目的で、21 世紀の始まり夢のある学校を作りたいとの思いから、教員経験のない手島教育長と聖籠町民とともに新設の聖籠中学校を創った。理念は「町民立中学校」である。

4 教育コーディネーター実習講座に力を入れている。

- ・ 教育コーディネーターの第 1 の資質は聞くこと（聞き出すこと）聞いて、引き出し、繋ぐこと。
- ・ 新潟県生涯学習推進センターとの共催で今年 5 回目の講座を開いた。（2 日間）
仲間がファシリテーターとして、参加した。先生方、公民館主事、P T A、まちづくり関係者（民間）が約 40 名参加、ともに学んだ。
- ・ 講座のプログラム

場づくりの手法（ゆるやかな関係づくりゲーム）～ムードづくり

コミュニケーション技術を学ぶ

インタビューゲーム（セルフラーニング・平井氏の開発）

2 人 1 組で 20 分ずつ聞き合う。ルール（開放系のルール）は

ア 何を聞いてもいい（聞く自由を保障する）

イ 答えたくないことは答えなくていい（答えない自由を保障する）

ウ 聞かれないことでも話していい（話す自由を保障する。）

そして、メモをとりながら B 6 のカードにまとめて発表する。

コミュニケーションゲーム～ゲームを通じて安心感が生まれる。知ったり、認め合ううちに人間関係が縮まってくる。

ア 精神病院でのワークショップ（浦河や札幌の「ベテルの家」で）

「病気のままで幸せになろう」との発想で、「あるがままの姿」に感動。また病気再発の恐れや精神病という烙印を押された目で見られている。なかなか病気が治らない。

イ 鹿児島県川辺町の子ども病院 200 人の精神病患者がいる。

閉鎖病棟で「病院のよいところ、気になるところは？」上手に話せない人は看護婦が代筆をして聞いた。

ウ 痴呆老人がワークショップを 2 時間じっと聞いている。

コミュニケーション技術（分かり合う新しい関係）

5 ワークショップ～お互いが学ぶ（学校教育に欠けている場面）

主体的参加

平等・対等の交流

全人的体験

6 学校や公民館に、まちづくりをやっている人が入ってくる。（地域づくりの視点で）

異質のジャンル

対等交流

主体的交流

問題を出し合う

- ・ 殻（壁）が破れていく感覚＝気持ちがいい、心地がいい、壁がなくなる、人間関係ができる

7 壁が破れる場づくり

- ・ 豊栄での 3 日間の研修 総合的学習の時間のプログラムづくり（4 つに分けて、農業を学ぶ、商店街を学ぶなど）

学校の先生 今までひとりで作らなければ、学校の先生で作れるもの

みんなで作れるものなのですね

- ・ 講座をやろうとした訳

- 何十年も住んでいるが、何にも知らないと感じた。よそのまちはよく見える。街中に宝物がたくさんある。
- ・ 松枯れの原因を調べると、松くい虫が犯人ではなかった。
犯人探しより関係づくり
問題が起きる 犯人を捜してそれで済まそう。そして、すぐに犯人を捜して安心する。(安全対策)しかし、やればやるほど、不安は大きくなる。(安心対策)
場の研究(清水ひろし)「安心の社会技術」~安心対策が大事である。
 - ・ まず、町を知れ! 町の歴史 自然
自分の位置に気が付いてくる。小さな志が芽生えてくる。(地域観が変わる)
- 8 犯人探しでは問題は解決しない
- ・ 学校の先生方 親がなっていない、親育ちが大事だ
PTA 学校の先生方は社会性がない
 - * お互いに犯人探しをやっている、しかし、犯人探しでは問題は解決しない。学びあうことが大事(コーディネート)助け合えるいれ関係をつくる。その場作りがコーディネーター
 - ・ 公民館がやったこと(加治川村)~新発田市との合併問題がある。
まちづくりコーディネーター講習会の受講生である生涯学習課と建設課の職員が一緒になって、合併になる前に自分たちの町のアイデンティティを形成しよう。住民と一緒に、個性ある未来像をつくろう。
 - ・ 村を知る(歴史、人)10人ぐらいに集まって5分ずつ話してもらう
農業者~米価が下がるから米をたくさん作る(機械化で借金が増える。)ではなく高く買ってくれる人を見つけよう!独学でインターネットによる売買ゲームをした。
工夫 自分や作り方を知らせる 検索エンジンに引かかるように 問い合わせに、日に何回も応える
 - ・ ほたるの里づくりのためのカワニナの養殖、神楽の復活、日本一の桜並木、野鳥の会による登山ガイド こんなに村のことを考え、運動をしてくれている人がいる。村がピカピカに光って見えた。
 - ・ 地図に表示していく。村資源をどうにかしていくか 未来像が見えてくる。
村全体が総合的学習の時間のフィールド 情報を得ることができた。
みんながともに学ぶ場はとても大事
まちづくり自体が観光になる。まちづくり観光
例 秋津に行くなら、岸さんに会って、小学校に行き交流したいと思う。
- 9 新潟市の部長研修
- ・ 先入観 頭の固い人たち
38名を2つのグループに分けて研修。平服でまちづくり観光をさせた。
元気の出ている商店街、実家をなくした人のための実家、地域の茶の間、痴呆老人グループホーム、名札には自分が小学生のときに呼ばれたあだ名を書く。だんだん現場に行くことにより、目線が下がってくる。元気な人が町を支えていることを知り、目からうろこ、新鮮な気持ちになった。2日目にはその気持ちを、未来像につなげるワークショップをした。
 - ・ いろんな取り組み、NPO、ボランティア、市民団体に今何が起きているかを知り、距離が近づいた。
- 10 聖籠中学校の取り組み
- ・ 統合中学校を作る会を立ち上げた。その委員に一般の人をたくさん入れた。(自分で教育を考えるように)
 - ・ 未来のたねという学校応援団(PTAではない)
学校自体を町の中の地域の学校にしよう
 - ・ 学校の中に森を作ろう
どんぐりを拾う 芽を出す 苗を育てる 植樹
 - ・ 地域交流棟
毎日2、3人学校に来て授業や行事に参加する
パンフや800円の紹介した本を売り、そのうち300円が未来のたねに入る。
大人が楽しんで学校に関わる
学校に居場所がないといけな。普段、先生に見せない顔を見せる。
大人が見守ってくれる、話しかけてくれる存在
地域の方が、学校がよく見える。
 - ・ 町民の志で支えられる「町民立聖籠中学校」を目指そう!
 - ・ 合宿研修の開催~学社民の横の連携がある。

幼小中高の縦の連携がある。
バトンタッチ リレーゾーンをつくり、お互いに学びあう。
全体の見通しが一人一人立てられるように

11 まとめ

- ・ 学校教育に無縁の私が、自殺の事件をきっかけとして、一人一人に問われていることがあると思い学校教育に携わるようになった。自分の場の中でいかに環境に一步踏み出すこと、出会い・学びの場が大事である。

パネルディスカッション

「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」

期 日：平成16年8月21日(土) 13:15~14:45

会 場：盛岡市「プラザおでつて」

パネラー：國井達夫氏(前盛岡市教育振興推進委員会会長) + 清水義晴氏 + 役重眞喜子氏(岩手県東和町教育委員会次長)

+ 前田 恵氏(徳島県海部町教育長)

コーディネータ：野澤令照氏(学校と地域の融合教育研究会東北支部長)

参加者のアンケートより(集計;本部事務局)

「融合フォーラム2004 in 盛岡」の感想から

アンケート提出 26名

1 あなたは、このフォーラムについて何で知りましたか。

- (3) 会報
- (1) 新聞や雑誌の案内(それは)
- (20) その他()

2 このフォーラムは、何がよかったですか。(いくつでも)

- (21) 基調講演
- (22) 分科会 それは(第1; 3名 第2; 4名 第3; 1名
第4; 3名 第5; 3名 第6; 3名)
- (6) 会員発表「屋台」
- (10) 懇親会
- (8) 居酒屋
- (13) パネルディスカッション
- (6) 特別講演

ほかに、オプションツアーについての「良かった」という感想あり(後日ファックスで)。

3 このフォーラムに対するご意見・ご希望

- ・ 初めて参加して、参加者がみんな生き生きとしているのに感動しました。スタッフの方々もどんどん動いているのが分かりとてもいい研究会だなと思いました。また参加したいです。
- ・ なんだか感動する話が多くて暖かい気持ちになりました。私も何かボランティアをしたくなりました。当たり前の「人と人との出会いで人が変わる」ということが大切だと改めて感じました。「誰かのために何かができること」の喜びをみんなが感じられる世の中になれば素敵だなと思います。
- ・ 職場で紹介を受けて初めて参加しました。学社融合というより、地域の教育力の回復や教育コミュニティづくりに、地域の特に男性が結集して実践している活動のご紹介を感じました。ぜひ仕事にも生かしていきたいと思えます。
- ・ パネラーや会場の参加者の実践を詳しく知ることができてたいへん勉強になりました。
- ・ みちのく東北での開催に感謝申し上げます。全国規模大会ですので次回の東北は相当の経過年数が必要かと思えます。ということで東北ブロック単位の会合があってもいいのでは・・・。
- ・ 全国で様々な実践をしている人たちの実践が本当に熱く伝わってきます。ネットワークが広がっているのを感じます。時間がもっと欲しいと思います。欲張りなフォーラムです。時間が少ない中に、いっぱいポケットに詰め

込んでとても熱く重くなりました。

- ・日程の割りに内容盛りだくさんの充実した研修会になっていると思います。5分科会の森川先生の話をもっとお聞きしたかったです。
- ・とても刺激を受け、また元気をいただける2日間でした。初めての参加でしたが、予想以上に濃い2日間で楽しかったです。またこれから目いっぱい実践していきたいです。
- ・本音で語り、場を共有できるフォーラムであることを実感しました。学校現場の人たちがもっともっと参加して考えを述べ語り合うことが必要だと感じました。
- ・本当に参加してよかったです。ここでいただいたたくさんのものや思いを他の方にも伝え広めていきたいです。
- ・初めての参加でしたが、全体に落ち着いてスムーズに流れていったと思います。会員として長い方(顔見知り)が多く、それだけ安心感になってきたとおもいます。会場がわかりやすく、goodでした。
- ・地域の仲間と自分たちの子の学校で学校図書館開放をしていることの意味を再確認しました。「私たちもけっこうやってるじゃん」という思いを抱いて気持ちよく帰ります。
- ・学校の先生、親とか言う人の参加が多かったせいか教育寄りの話を中心でした。たくさんおもしろい話もありましたが、子供という存在に全然関係ないような若者・高齢者の「学校を使ってやる」という話が聞けたらおもしろいかなと思いました。僕は、子供という存在に今のところ無縁なもので、でも学校って使えないものかなと思っています。今日の話で存在意義を見出せる場というヒントを得ました。『助けてあげる人だけじゃなくて弱みを見せる人も人材である』
- ・事前のメールの活発な活用が上越的でよかったです。
- ・「屋台」が散漫な感じで再考の時期かもしれません。(内容や会場を一ヶ所にしてにぎやかな屋台風、二日目にするとか)
- ・特別講演『ハンナのかばん』は、子供向けだったかもしれませんが、ハンナと同時代の日本の侵略での被害者の子供事例も加えると日本の問題でもあると「もっと身近に」迫ったと感じました。
- ・基調講演での他人との付き合い方の難しさ、一度話し合ったら自分のこともわかってもらえる友情的な人もできる。私たちのような田舎では普通に話しかけるのもある。
- ・実践されている具体的な事例をもとにお話されていることを接聞くことができよかった。時間を有効に利用できる会場でよかった。参加者がテーマについてもっと本音で語っても良かったのではなかったかと少々思った第5分科会でした。学校の力になるべき教育委員会の方々が多かったからなのか学校の力不足より、教育委員会の力不足を改善する必要があると考えました。
- ・全国的なつながりあり大変良かった。ブロック・県レベルでのフォーラムもやってほしい。
- ・学校と地域の融合の方法・取り組み等多くの地域で様々な試みがされていることを目のあたりにしてとても勉強になりました。わが子が通う小学校でも何かできることがあると思います。まずは今回得たもの(菌?)を周囲のおかあさん達に散布することから始めたいと思います。融合のあり方、コーディネートする人の必要性、役割の難しさを感じていました。いろいろな立場の方の参加がありましたが、校長・教頭レベルの管理職としての立場からの意見をもっと聞いてみたい。
- ・毎回みなさんの盛んな営為のお話を聞けて元気をいただけます。たくさんのお酒も身にしみみます。パネルディスカッションでの会場からの大阪の木村先生のお話に特に感動しました。ボランティアを含め、多くの大人の目が子どもたちに注がれることによって子供ひとりひとりに影響を与えられることができるのだと思っています。
- ・岩手の山奥の小規模校では縦割りで2泊3日のキャンプを実施しているが、学校の負担は大きいと思う。他県では学社融合で行っている。本日は大変参考になりました。
- ・難しかったです。興味をひかれました。犯人探しでなく関係づくり……。まさに今必要なこと、一人ひとりが当事者となり小さな一歩を踏み出すことです。
- ・学校の先生方にもっと参加して聞いてほしいと思った。またPTAにも広く情報が伝わっていればもっと広がっていく、広がってほしいと思った。
- ・基調講演には大変共感しました。
- ・上田中学校の高松地域の活動に感動した。

4 学校と地域の融合教育研究会に対して

関心が(ある; 23名 ない; 0名)

「ある」と答えた方に、それは、どんなことについてですか。

- ・学校現場にいると「どうしていいかわからない」という考えが先に立ってしまい、行動に移せないのが現状です。いろいろな実践を聞くことで、自分たちができそうなところから取り組んで生きたいと思えます。
- ・今後、地域自治組織の全国的動向などと関係して、どのようなことがこの研究会の中から見えてくるか楽しみです。(もうすでに始まっているようにも思いましたが、おいうことに)
- ・まだ自分の中で問題が整理されていないので、いろいろと聞いてみようという段階です。
- ・学校の教育内容に地域の教育力をどのようにお願いできるか、その手順など。またあ、教職員に融合をどう理解してもらえるか。
- ・子供を見つめ育てる目・顔はいろいろな姿があっけいと感じています。いろいろな発信を具体的な姿に表していくためのヒントがたくさんあるからです。

- ・ 学校の立場でどう考えて進めているのか知りたいです。
- ・ 還暦を迎えようとしている学制の見直しの時期。この手法なくして「子育て=己育て」は実現できない。ゆえに「国育て」を無理？
- ・ 地域活性のための学校のあり方と活用について。
- ・ たぶん今の若者は、組織に属するということに抵抗を感じます。おもしろそうだったら参加してつまらなかったら参加しない、というスタンスもありですね。融合研は会員外でも気軽に参加できますのでその意味では来やすい場でもあります。
- ・ 自分が学べる場であり出会いであり協同の意思を確認できる会でした。
- ・ 会員の方のお話をもっともっと伺いたいです。
- ・ 私も学校とのつながりがある仕事を少しでもやっている関係上、できれば地元の先生が多ければ学校にも行きやすくなる。
- ・ 学生の頃学んだことにつながるのに興味がある。また現在の自分なりの問題意識の中、学校と地域の融合について考えたり悩んだりすることがある。
- ・ 学校を開放して地域の人々が活動している事例。子供とお年寄りとの学びの場。
- ・ 教育委員会、学校、地域と立場は異なる人々とお会いしてお話を伺うことが喜びです。穴倉にへこみそうになるときにMLを読み元気を少し回復し、お会いすることでエネルギーを充填できます。
- ・ 様々な事例を知り交流できるから。
- ・ 融合研の一員になれた満足感があり、今後の会員交流や融合に関する情報に期待しています。

5 その他（どんなことでも）

- ・ ホテルでも夜まで語り合うエネルギーはやはり一人ひとり自分の「志」活動していることのあらわれだと思います。教員もこのくらいのエネルギー・バイタリティが必要だと、つくづく本当に思いました。
- ・ 盛岡は初めて来ました。連日猛暑に見舞われて少々バテ気味だったのですが、とても気持ちのいい気候の中でたくさんの人にお会いできてちょっと元気になりました。
- ・ フォーラム実現のために活動されたお世話役の方々、当日の係り分担をなされた方々ありがとうございました。セリで買い取られた美酒をみなさんに配分された方々も……。パネルディスカッションではパネラーから種々のことを聞け会場からも具体例を聞いて熱い思いを確かめることができました。コーディネートの大切さが分かりました。
- ・ とてもとても有意義なパネルディスカッションでした。
- ・ パワーアップしたフォーラムでした。学校現場を離れて、今気持ちに余裕がありませんが、多くのエネルギーをいただきました。年報、資料集とってもすごいです。これから少しずつ仲間を増やしたいです。岩手の皆さん、事務局に感謝です。
- ・ 様々なフォーラム・ワークショップに参加するたびに学校現場の意識の遅れに焦りを感じる。子供たちを育てる場であるのに時代の流れは別世界のような状況。今まさに学社融合は必要な考え方だと思った。
- ・ とても学びの多い楽しいひと時でした。学校関係者で地域の人たちと一緒に活動したいという方が多いことをうれしく思いました。
- ・ 自分で振り返ることができ、多くの諸先輩の熱い思いを一気に浴びることができました。会員のひとりこいれでいただきたく思いました。スタッフの皆様へ感謝します。
- ・ 今回は、話を聞くだけで精一杯だったが今後もできるだけ参加したい。
- ・ 参加者や裏方さん一人ひとりを大事にする会だなということを実感しました。融合の空気と様々な資料・提言・情報により自分の融合の火が少しずつ膨らんでいく気がします。会長さん、実行委員長さん、スタッフ・関係者の皆様へ感謝申し上げます。
- ・ 第2分科会に参加させていただきました。学校図書館の開放の取り組みは、もっともっと保護者や地域の方でボランティアをやりたい人はいると思います。一方、子供が本嫌いにならないためにもう一つの切り口として文章が読める国語力や音読力をつけてあげる指導が大切だと思います。小1、小2で教科書がスラスラ音読できない子どもたくさんいて、本だけを与えても自力で読める喜びを味わえないこともあります。また機会があれば関らせていただきます。
- ・ 聞いていたとおりまさに「おもしろい」方々が集まっていてとても勉強になりました。楽しかった。
- ・ 教育行政の方々（とくに地元）の参加が少ないのが残念です
- ・ 年報と資料集NO1の作成・配布がgoodでした。今後も論文募集が会
- ・ 基調講演会場が寒かった。「プラザおでっ」の表示や「融合フォーラム」の表示が表になく、他県から来た人にはわかりにくかったのではないかと。当日の日程は別刷の方が分かりやすいのではないかと。

ありがとうございました。

2 総会決議より；会則をはじめ、いろいろなことが変わりました。

これまで、規約に基づく年1回の融合研の総会はフォーラムの際に行ってききましたが、必ずしも会員の多くの参加があるわけではありませんでした。そこで昨年度より、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表

示をしていただけるようにということで、通信による返信をもとに総会に参加していただくことにしました。今年、その返信分と盛岡フォーラムでの総会出席者をもって成立の運びとなりました。

総会の議案

平成15年度事業報告；承認

平成15年度会計報告；承認

平成16年度事業計画；承認により、別紙のように会則が変更になりました。

平成16年度役員案；承認により、以下の役員が決まりました。

会長	宮崎 稔	(習志野市立鷺沼小学校)
副会長	岸 裕司	(習志野市秋津コミュニティ)
同	油谷雅次	(大阪府北貝塚小学校コミュニティルーム運営委員会)
同	野沢令照	(仙台市教育委員会)
同	渡辺喜久	(富士宮市教育委員会)
監事	小山みさ	(市川市ナーチャリングコミュニティ)
同	常田 洋	(市川市ナーチャリングコミュニティ)
プログラム開発委員長	越田幸洋	(鹿沼市「融合教育研究所かぬま」)
相談役	庄子平弥	(仙台市「シニアネット仙台」)
事務局長	宮崎雅子	(佐倉市主婦)
東北支部長	野沢令照	(仙台市教育委員会)
千葉支部長	上農良廣	(船橋市)
北関東支部	未定	

事務局体制については、人選の後、お知らせします。

改正された会則 (下線部 _____ が変更されたところです)

学校と地域の融合教育研究会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、学校と地域の融合教育研究会と称す。

第2条 この会の事務局を、会長が定めるところに置く。

第3条 この会は、学校と地域が連携・融合しあって行う教育・学習の理論と実践について研究し、学校や社会で行われる教育・学習の充実を踏まえた生涯学習の進展と、学校を活かしたコミュニティの発展に資することを目的とする。

第4条 この会は、上記の目的に賛同する者で構成し、すべての会員は別に定める会費の納入の上で、平等の権利と義務を有する。

第2章 方針と活動

第5条 本会は、すべての会員の立場を尊重し合い、互いに干渉することなく目的達成のために協力する。

第6条 目的を同じくする他の諸団体や機関と協力して活動する。

第7条 特定の政党や宗派に偏らず、いかなる団体や機関の支配や干渉を受けない。

第3章 活 動

第8条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1)調査研究等のための活動

学社融合やまちづくりに関する調査・研究

学社融合やまちづくりを推進する機関・団体等への助言・支援

関係機関等への提言

(2)研修等のための活動

融合全国フォーラムの開催

- 支部などによる地域フォーラムの開催
- 研究セミナー等の開催
- (3)情報集積・発信・交流のための活動
 - 研究情報誌の発行
 - 会報の発行
 - インターネットを活用した情報発信・情報交流
- (4)会運営のための活動
 - 総会の開催
 - 役員会の開催
 - 事務局会議の開催
- (5) その他、本会の目的達成に必要な活動

第4章 役員

第9条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 事務局長 1名
4. 相談役 若干名
5. 監事 2名
6. 専門委員長 委員会数
7. 支部長 支部数

第10条 役員の選出は、次のとおりに行う。

1. 会長、副会長、事務局長、相談役、監事の選出は、総会において行う。
2. 専門委員長の選出は、専門委員会で行う。支部長の選出は、支部で行う。なお、専門委員長、支部長については、選出後の総会で報告するものとする。

第11条 役員の任務は次の通りとする。

1. 会長は、本会を代表し会務を総括する。
2. 副会長は、会長を補佐するとともに会長事故あるときは代行する。
3. 事務局長は、会長の指示のもと、会計、庶務、広報等の会務の連絡調整を掌り、会の円滑な運営にあたる。
4. 相談役は、会長の求めに応じ、本会に大所高所から意見を述べる。
5. 監事は、会務および経理を監査する。
6. 専門委員長は、担当課題に対する活動を総括する。
7. 支部長は、支部を代表し、支部の活動を総括する。

第12条 役員の任期は、次の通りとする。

1. 会長、副会長、事務局長、監事の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。
2. 相談役については、会員である限り終身とする。
3. 専門委員長、支部長の任期は、それぞれの専門委員会や支部において協議して決定する。

第5章 組織等

第13条 次の会議を置く。

1. 総会

- (1) 原則として毎年1回開催し、会務の報告・役員を選任・規約の改正・その他重要な事項を審議する。
- (2) 会長が招集し全会員で構成され、本会の最高議決機関となる。
- (3) 会員の5分の1をもって成立する（委任状を含む）。
- (4) 議決は出席者の過半数による。但し、可否同数の場合は議長の決定による。
- (5) 次のいずれかの要請により、臨時総会を開催できる。

役員会で必要と認めるとき

会員の10分の1以上が必要と認めるとき

2. 役員会

- (1) 必要に応じて会長が召集し、会務の企画・運営に関する重要な事項を審議する。
(2) 役員会は、会長、副会長、事務局長、専門委員長、支部長で構成する。

3. 事務局会議

- (1) 必要に応じ事務局長が召集し、会務の企画・運営に関する連絡調整を図り、原案作成を行う。
(2) 事務局会議は、事務局員で構成する。

第14条 事務局については次の通りとする。

1. 事務局は、本会の庶務、会計、広報等を担当する。
2. 事務局は、事務局長と事務局員で構成する。
3. 事務局員は、事務局長の推薦に基づき、必要に応じ、会長が委嘱する。

第15条 調査・研究等を担当する専門委員会を置く。

1. 会長は、必要に応じ、専門委員会を設置することができる。
2. 専門委員会は、参加を希望する会員で構成する。
3. 専門委員会に委員長を置く。
4. 専門委員会は、本会が全国組織であることに配慮した運営を行う。

第16条 地域ごとに支部を置く。

1. 支部は、地域ごとに会員有志が、任意に組織する。
2. 支部活動は、本会則第2章、第3章の定めにより活動する。
3. 支部に、支部長を置く。
4. 支部の規則、組織構成は、支部会員の総意に基づき、支部ごとに決める。

第6章 会 計

第17条 本会の経費は、会費およびその他の収入による。

第18条 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第19条 予算・決算については、総会において審議し、承認を得なければならない。

第20条 本会の各種の活動に個人的に要する経費は、活動者自身の自己負担を原則とする。

ただし、担当する会務遂行のために立場的に必要となる経費については、別途細則を設け、本会の負担とする。

第7章 会 則 等

第21条 本会則の変更は、総会の議決を経なければならない。

第22条 本会の運営に必要な細則は、別に定める。

第8章 解 散

第23条 本会は、第1章第3条の目的を達成するか、存在の意義を認めないと判断したときは、総会において会員の総意をもって解散することができる。

第9章 附 則

1. 本会則は、1997年8月3日から施行する。
2. 本会則は、2004年8月21日に一部改正し、同年4月1日に遡って施行する。

3 来年度のフォーラムについて ; 高知県で開催されます。魅力的な内容が満載です。

(高知から届く予定)

4 2006年度のフォーラムについて; 10回目になりますので、東京で行う予定です。

1

回の融合研の総会はフォーラムの際に行ってきましたが、必ずしも会員の多くの参加があるわけではありませんでした。そこで昨年度より、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表示をしていただけるようにということで、通信による返信をもとに総会に参加していただくことにしました。今年は、その返信分と盛岡フォーラ

5 事務局会議から; たくさんの方が参加して熱心な討議が行われました。ホームページの活用をはじめ、いろいろなことが検討されましたのでよくご覧ください。

開催日時; 2004年9月23日(木) 17:00~ 於. パンゲア

1 盛岡フォーラムの反省

《事務的内容》

冊子(年報)ができたことは、良かった。が、封筒に日程と会場案内を印刷する。

高知で検討へ

袋詰めをしないで済み、前日の混乱がなくなったのはよかった。が、観光案内や、あとから届いた飛び込みのパンフレット類をどうするか。たくさん余ったので。事務局への連絡なし。高知で検討へ

参加費が安すぎないか。盛岡では、実質赤字になった。見積もりをしっかりと行うこと。(例)会場費、講師料、年報代、看板代、事前準備費、スタッフの弁当代、等々。

上限として、会員; 1500円 非会員3,000円(学生は、半額)

; 前日の打ち合わせができないので、午前中の準備と打ち合わせが錯綜した。

会場が9:00でないと開かなかった。ホテルに資料が届いており、取りに行かなければならなかった。初めて参加する現地のスタッフには、流れが見えない

打ち合わせをどう持つか。

会長や事務局長はできるだけ受付周辺にいること

アンケート後から提出ができるようにFAX番号を記載

事前に打ち合わせしたことは、各担当が守って欲しい。担当の裁量で変更しないように。 会長・現地実行委員長・事務局長等の了解を得ること。

《日程等》

日程の見直し(チェックインの時間や屋台準備の時間の確保。総会の時間をどう確保するか。また時期を変えるか、メールと郵送で済ませるか)

セリ市の位置づけ(時間、内容の検討。セリ用品はお土産ではない; 確認する)

屋台の位置づけ 発表者の場所の決め方やPRタイムは必要

居酒屋は、好評であった。(部屋の間取り、PRタイムの設定)

その他

- ・パネラー・コーディネータは会員(会長・副会長)から出したらどうか
- ・発表者に教員が少ない。校長等ではなく、担任か教科担任を。
- ・速報の意義; 必要であったか。誰が、誰に向けて・・・反応がないか。

2 高知大会へ向けて

中or コッコさんから決定事項を送ってもらう。

3 東京大会について

4 厚木支部について

5 その他

《ホームページのあり方》；討議内容の概略を載せます。

現状；

- ・個人用の認証番号を忘れていたり、その他の原因で開けなかったりする会員が多い。そのために、事務局や管理者への問い合わせが多い。
- ・制約が大きすぎてたどり着けない会員が多い現状では、本来の役割を果たせない。本末転倒である。
- ・管理者が、会員のメリットとして会員専用のページは必要であるというのはよく分かる。その中で、会の推進に寄与する内容をweb上で語り合うことも大事であるという思いもよく分かる。
- ・ホームページを運営する編集委員会を組織し、独自のメーリングリストも開設して運営を推進していこうとしたが、実質上ほとんど機能せず、ホームページもほとんど更新されていない状態である。そのために魅力がないものになり、訪問者も少ない。編集委員会がになうべき役割もすべて管理者にしわ寄せになっているのはよいことではない。
- ・会員も、問い合わせればなんとかなる、という安易な気持ちでは事務局や管理者の負担が大きくなるばかりである。なんでも相談するというのではなく、開くための勉強をする義務がある。しかし、不得意な人はなかなか身に付かない。

これからホームページをどうするか

会員の現状に立ち返って、ホームページの位置づけ（スタンス）から討議すべきである。

会員論文等が充実してきており、またメールで即時性があるやりとりがなされている今、会員のメリットを重視するより、「外部へ向けての宣伝媒体である」というスタンスを明確に出す。

盛岡フォーラムの分科会発表をした光が丘中学校では、保護者も書き込みができるようになっており、活発な利用ができています。易しくして、誰でも利用できるようなものにできないか。

気軽に使えるものを考えてみたほうがよい。

しかし、セキュリティ面でリスクが大きいのか。

管理者は必要である。内容については、たとえば事務局長とか編集長が確認して、許可されたものだけが通過して書き込まれるという方法もある。多くは、そのようにしているようだ。

トータルサイトというものがある、すべてをそこに入れられるという簡易な方法もあると聞く。

運営委員については、インターネットの特性上、地域は離れていても管理できるので、幅広い地域から選択できないか。

この際、従来の編集委員会を「いったん解散して」、趣旨を説明して委員を公募で「再募集する」という手順を踏んで、新たに編集委員会を組織したらよい。

「盛岡フォーラムの速報版」の継続について

盛岡フォーラムの速報版を掲載していただいた「アイボラ紫波」のご協力で、当初、9月末で閉鎖という予定を変更して、今後も継続して開設していただけることになりました。このことにより、東北支部では、フォーラム後も、継続した支部活動になるようにということで、更新もしながら情報交換・情報提供を続けていくということになりました。みなさん、ご利用ください。

9月23日の事務局会議参加者

宮崎稔 岸裕司 野沢令照 渡辺喜久 小山みさ 常田 洋 越田幸洋
宮崎雅子 上農良廣 中政勝 城佐知子 中川洋太 青木信二 車育子
竹田以和生 宮本勉 江口勝善 塩野ひろ美 佐竹正実 杉野義明 21 戸叶俊文
22 堀越幾男 23 矢吹正徳 24 杉水久仁雄 (ほかに、会員外で7名が参加)

6 年報と資料集の発行について；第2号・第3号が発行されます。

(越田に原文を送ってもらい付け加える)

のたび、融合研プログラム研究開発委員会が担当して「融合資料集」と「年報『学社融合』2004」を発行した

しました。盛岡フォーラムに参加した人には会場で無料で配布し、大変な好評を博しました。参加できなかった会員には同封しましたのでご活用ください。

なお一人1冊ずつですが、知人に紹介したい等で欲しい方には、以下のように有料でお分けします。事務局までご連絡ください。

〔頒布価格〕 会員の2冊目以降；年報・資料集とも「1冊につき1000円」〔送料別〕
会員以外への頒布；年報・資料集とも「1冊につき2000円」〔送料別〕

今後は、以下のような予定で第2号・第3号を発行します。ご期待ください。

7 融合塾での学習から；熱心な学習から様々な成果が生まれています。

開催日時；2004年9月23日(木) 14:00~17:00 於.パンゲア

内容

1回の融合研の総会はフォーラムの際に行ってきましたが、必ずしも会員の多くの参加があるわけではありませんでした。そこで昨年度より、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表示をしていただけるようにということで、通信による返信をもとに総会に参加していただくことにしました。今年は、その返信分と盛岡フォーラム

9月23日の融合塾参加者

宮崎稔 岸裕司 油谷雅次 野沢令照 渡辺喜久 小山みさ 常田 洋 越田幸洋
上農良廣 藤尾智子 中政勝 城佐知子 中川洋太 青木信二 車育子 竹田以
和生 宮本勉 江口勝善 塩野ひろ美 佐竹正実 杉野義明 戸叶俊文 堀越幾男
矢吹正徳 杉水久仁雄(ほかに、会員外で7名が参加)

中正勝

8 その他；2007年度のフォーラム開催の立候補を受け付けます

融合研年報「学社融合2005」に収録する研究実践報告を募集します

- 1 募集内容 学社融合に関する論文、実践報告レポートなど
- 2 執筆要領 タイトルを中央揃えで記入する
都道府県市町村名 会員№ 氏名をまず記入する。
適宜項目立てをして記載する。横書き。文体は自由。
写真は使用しない。
A4版4枚以内とする。1ページは40字×40行を最大とする。
執筆の謝礼はありません。
*会員以外にも配布されるので、執筆内容の公開に関しては執筆者本人が責任を持って関係者の承諾を得てください。
パソコン使用者はワードで作成する。パソコンを使用しない方は、400字詰め原稿用紙に横書きする。
- 3 提出期限 2005年6月20日(それ以外にも、随時受け付けています)
- 4 提出先 パソコン使用者は、メールに添付し、プログラム研究開発委員会委員長「越田幸洋」に送付する。
アドレスは mailyuki@bc9.ne.jp
パソコンを使用しない方は、下記に郵送する。
〒322-0007 栃木県鹿沼市武子539-31 越田幸洋
- 5 問合せ先 プログラム研究開発委員会委員長 越田幸洋 Tel&fax0289-63-4788

融合研プログラム研究開発委員会の参加者を募集しています

融合研では、今後、融合研プログラム研究開発委員会を本格的に稼働させることになりました。プログラム研究開発委員会の業務内容としては、

- 1 融合教育のプログラム研究開発のための学習会の開催
- 2 学社融合プログラムの収集、分析とそれを収録した資料集の発行
- 3 融合教育に関する論文などの収集とそれを掲載した年報の発行
- 4 会員への研究成果情報の発信
- 5 学社融合活動の実践化の支援

を考えています。

これらの業務の中でも、委員会としては実践事例の分析のための学習会を中心業務にしたいと考えています。そのためには、集まる必要があるわけですが、会場が東京になるため、遠方からの参加は難しくなると思います。しかし、今はメール通信があります。資料分析などの研究活動にはメールを使えば、どこにいても参加できます。そこで、委員会の構成を次のようにしていきたいと考えます。

会議に参加できる方委員

メール通信で行う研究活動にのみ参加する方.....メール委員

以上がプログラム研究開発委員会の概要です。

このようなプログラム研究開発委員会に所属することを希望される方は、越田までご連絡ください。そのおり、委員となるのか、メール委員となるのかもお知らせください。皆さんの参加で、きっと楽しく充実した融合研究活動ができるようになることでしょう。たくさんの方の参加をお待ちしております。

【連絡先】 プログラム研究開発委員会委員長 越田幸洋

メール mailyuki@bc9.ne.jp

Tel&fax 0289 - 63 - 4788

住所 〒322 - 0007 栃木県鹿沼市武子539 - 31

おまけ（編集後記のようなもの）

昨日は、大変ありがとうございました。融合塾 事務局会議に参加致しましたが、プログラム開発委員の方々は昼から深夜まで(?)ずっとこもりっきりの一日で、さぞやお疲れのことだったと思います。

融合塾の盛況振り、目を見張らんばかりでした。

北は青森 南は四国松山まで、全国から集まってこられましたがとても充実した熱い時間を共有させていただきました。

一緒に連れて行った紘子(娘です...)も、場の雰囲気浸って何かを感じ取ってきたようでございます。来年の四国には、もう行く気満々になっています。

事務局会議でも、盛岡の反省から始まって、活発な話し合いがなされ、いくつかの支部の誕生(?)まで、大いに盛り上がりました。

一番大切な懇親会は、時間の歓迎で途中で失礼致しましたがさぞや延々と盛り上がったことございましょう。

さあ、来年は四国でのフォーラムです。現地では、融合の会員も毎日のように増えてきているとのことでした。ぜひ頑張ってください。

私も、早速旅費の貯金を始めたいと思います。